

歳出について、今後の課題 1 点目は、国が主導する事業推進によって、自治体財政が圧迫される現状です。

大きな支出として挙げられるのは、国主導による学校施設へのエアコン設置ですが、20 億円もの莫大な投資額となりました。また、幼保無償化に相当する子ども子育て臨時交付金は 5.9 億円でしたが、初年度のみ交付となり、次年度以降に向けては非常に厳しい状況となっていく現状を正しく認識しなければなりません。

2 点目は、今後の基金積立の必要性です。

近い将来に向けた基金として、前年に創設された市民病院整備基金は 1 億円、広域ごみ焼却施設整備基金 2 億円が積立られました。これは、碧南市民病院との協議は続くとしても、2 市 2 病院構想となっていることと併せ、年間 4000 件に及ぶ救急医療機関を市内からなくすわけにはいかないという市民の願いを具現化するもので、欠かすわけにはいきません。

市民病院特別会計では、コロナ感染症による患者が激減、2～3 割減の影響が報告されていますし、加えて、令和 4 年頃からは、老朽化した電気設備の改修に 9 億円が必要と報告されていることも、議会として承知していなければなりません。

また、広域ごみ焼却施設建設は、市内岡山のクリーンセンターに 2 市 1 町共同で新設と決定され、10 年後には供用開始と見込まれています。岡崎市・幸田町と連携しつつ確実な積立が必要です。これは、西尾市としての信用を保持するためと心しなければなりません。令和 2 年の当初予算には計上されていないようですが、年度末には積むべきと考えます。